

第4章

将来像と 基本理念



01 将来像

区の自然や歴史、文化を育んだみどり豊かな住宅都市を継承し、魅力あるまちなみを創出していくため、景観計画の基本目標は右記のとおりとします。

旧井荻村の整ったまちなみや阿佐谷の中杉通りのケヤキ並木などをはじめとする区の景観は、まちを良くしたいという人々の思いが、さらに多くの人々の気持ちを動かし、百年近くの長い年月をかけて創られてきました。この先百年後も、区が誇るべき自然や歴史、風土に培われた文化を育んだ、みどり豊かで美しい住宅都市としてあり続けるための景観づくりを推進していきます。

将来像の実現に向けては、杉並区総合計画に基づき、区民意向調査による「まちなみに美しさや落ち着きがあると思う区民の割合」を指標とし、令和12（2030）年度までに、この割合を90%にすることを目標として景観づくりに取り組んでいきます。

「みどり豊かな美しい住宅都市、杉並百年の景」

	これまでの実績			目標値
	H25年度 (2013)	H30年度 (2018)	R5年度 (2023)	R12年度 (2030)
杉並区のまちなみに美しさや落ち着きがあると思う区民の割合	78.5%	79.8%	78.4%	90.0%

景観計画による将来像の実現に向けた景観づくりを進めていくために基本理念を定めます。

1 美しさと落ち着きのある まちなみを継承します

住宅都市である杉並区にとって、個々の住宅は、地域の景観を形成する重要な要素です。区民一人ひとりが、周辺との調和や連続性、緑化などに配慮し、低層住宅地*を中心とした住宅都市として、美しさと落ち着きのあるまちなみを共有の財産として継承します。

2 潤いと憩いの場となる 水とみどりの空間を創出します

区内を東西に流れる善福寺川、神田川、妙正寺川の3つの河川や玉川上水は、潤いのある身近な水辺の景観を形成しています。また、その周辺に広がる公園・緑地等は区民にとっての憩いの場となっています。これらを生かしていくために、河川沿いの公共施設の整備や住宅の建築などに当たっては、流域の良好な環境を守り、眺望が確保できるよう、水辺やみどりとの一体感や連続性のある空間の創出を目指します。

3 個性豊かな地域の 魅力や特色を生かします

区内には、西武新宿線、J R中央線、東京メトロ丸ノ内線、京王井の頭線、京王線の5つの鉄道が走っています。各駅周辺には個性ある商店街が形成され、後背地には静かな雰囲気住宅地が形成されています。駅周辺ごとにあふれる魅力や特色を生かしながら、地域の実情に応じたその地域らしく暮らしやすい景観づくりを住民とともに進めます。

4 杉並らしさが生きる 歴史と文化を伝えます

各地域には、年間を通じて、住民が中心となった新旧様々なイベント、長い歴史のある地域のお祭りや伝統行事が開催されるなど、にぎわいや歴史・文化の景観が存在します。さらに、歴史を感じることができる建築物や自然があり、昔ながらの景観を今に残しています。こうした杉並の歴史と文化を感じられる景観を後世に伝えていきます。